



茨城県立笠間陶芸大学校
 笠間焼産地の技術力や芸術性、デザイン性、ブランド力の向上と、現代陶芸をリードし、世界に羽ばたけるような人材の輩出を目指している。
笠間市笠間 2346-3
 (笠間芸術の森公園内)
TEL. 0296-72-0316



笠間焼は、今日、「自由な作風で知られる陶芸」と評され、この街で陶芸を学び、陶芸作家を志して製陶・創作活動をするために移り住む人びとは後を絶たない。志す人たちが魅了する、この街ならではの陶文化は、多くの教育文化施設に支えられている。



春風萬里荘
 この街の豊かな緑と盆地特有の四季折々の自然にふさわしい「芸術の村」構想に着手した前館長の長谷川仁氏と旧笠間市は、昭和40年、陶芸家として料理や食器の演出にまでこだわった意匠・北大路魯山人の茅葺き民家を北鎌倉より移築し、「春風萬里荘」と命名。現在、笠間日動美術館の分館となっており、周辺には40戸ほどのアーティストがアトリエを構えている。

笠間市下市毛 1371-1
TEL. 0296-72-0958

茨城県陶芸美術館

笠間芸術の森公園内にある陶芸専門の美術館。笠間市出身の人間国宝・松井康成をはじめ、日本の近現代陶芸界において優れた業績を残した文化勲章受章者や人間国宝の作品などを展示している。

笠間市笠間 2345
 (笠間芸術の森公園内)
TEL. 0296-70-0011



わが街、



創る、魅せる

笠間工芸の丘〜クラフトヒルズ笠間

陶芸体験をはじめ、陶芸品の常設展示、笠間焼の販売を行っている。ギャラリーでは、笠間焼の作家たちによる企画展が四季折々に催されている。

笠間市笠間 2388-1 (笠間芸術の森公園内)
TEL. 0296-70-1313



江戸時代の安永年間に、久野半右衛門が始めた「箱田焼」と山口勘兵衛が始めた「穴戸焼」が笠間焼の源流と言われています。主に甕やすり鉢などの生活雑器が製造されました。
 笠間藩第三代藩主・牧野貞喜と第八代藩主・牧野貞直が積極的に保護・奨励し、生産増加と陶技を後世に継承する目的で貞直が定めた藩の御用窯「仕法窯」に指定された六窯元(久野家、福田家、奥田家など)は今も製陶を続けてい

います。
 明治時代の陶器商・田中友三郎の活躍で販路を広げた笠間焼は一気に知名度を上げ、大正末期から昭和初期にかけての不景気や、第二次世界大戦、樹脂・金属製品の台頭などの危機を乗り越えてきました。戦後、窯業に関する幅広い研究と人材育成を目的とする茨城県窯業指導所が設立され、高度成長期には行政・民間が協力し、全国の芸術家を誘致する事業を開始。移住作家と地元窯元・作家が刺激し合い、交流を深めていく中で、斬新な表現と技法が生まれ、国の伝統的工芸品指定なども追い風となり、先達の技を尊重しながら時代の新しい波を受け入れ、他に類を見ない表現の多様性をもち、現在に至っています。
 伝統的な笠間焼はもちろん、笠間土を使った現代的な表現、さまざまな素材から生まれる新しい技法といった多彩な「顔」が、笠間焼の最大の特徴です。

KASAMAYAKI PORTAL SITE



笠間焼の作家紹介やオンラインショップ、笠間焼関連のイベントなどを発信するサイトです。
<https://kasamayaki.org>



笠間焼発祥の地には、震災で全壊した素焼き用登り窯が復元されている(笠間市箱田地区・久野陶園)。

三郎が、久野窯で陶器の製法を修業し、益子で窯を築きます(益子焼の始まり)。
 明治時代になると笠間・益子それぞれで組合が設立され、出荷規格を統一し、連携して製品の融通を図るなど支え合いながら、関東の窯業地として発展。大正時代にかけて、壺、水甕、すり鉢、土鍋などの日用品を製造出荷し、その製品は丈夫で使いやすく安価であったことから、東京を中心に東日本全域にまで販路を拡大することになります。
 二つの陶文化の歴史的価値が評価され、令和二年(二〇二〇年)、「かさましこ」は日本遺産に認定。今日、六〇〇名を超える陶芸家が活躍し、暮らしに寄り添う独自の陶文化を継承しています。



かさましこ

「兄弟産地が紡ぐ、焼き物語」



JAPAN HERITAGE
 日本遺産

焼き物の街として名高い茨城県笠間市と栃木県益子町「かさましこ」。近接するこの地は、古代から須恵器づくりに必要な粘土・水・燃料の木材に恵まれ、古代窯跡からの出土品に共通した技法が多数みられることから、同じ技術圏にあったことが分かっています。

十一世紀に下野国(現在の栃木県)を拠点とし、その後の約五〇〇年間、笠間と益子の地を治めた宇都宮氏は、京都の貴族との接点を持ちながら宗教・文化という側面に大きな足跡を残しました。この時代に「かさましこ」にもたらされた京都・鎌倉からの文化・芸術・気風は、後の笠間焼・益子焼の美意識に影響しています。

十六世紀後半、宇都宮氏が豊臣秀吉によって改易され、江戸時代になると二つの地域はそれぞれの歴史を歩むこととなります。
 十八世紀後半、笠間藩上箱田村の名主久野半右衛門がこの村で焼き物を始めます(後の笠間焼)。
 十九世紀後半には、間黒村鳳台院で寺子屋教育を受けていた大塚啓